（様式１）【ホームページ掲載用】

研究課題（テーマ）	手術室看護師が実践する術前外来の現状と課題及び期待に関する質的研究		
研　究　者	所　属　学　科　等	職	氏　　名
代表者	看護学部看護学科	助教	竹口 将志
分担者	看護学部看護学科	教授	松井 弘美

研究結果の概要

テーマは、「　手術室看護師が実践する術前外来の現状と課題　」とし、第 45 回日本看護科学学会学術集会で学会発表を行った。また、日本手術看護学会誌に投稿し受理された。以下に結果の概要を示す。

入院前に手術室看護師が術前看護を実践する外来（以下、術前外来）は、手術前のリスク管理や心身の援助を目的とした重要な看護ケアの場であり、手術の安全性向上や患者の安心感に寄与する。しかし、その実践は共通認識ができておらず、担当者や実施方法に施設間でばらつきがある。そこで、手術室看護師が実践する術前外来の実態を明らかにし、看護実践や運用上の現状および課題を検討することを目的とし、研究に取り組んだ。

研究デザインは質的記述的研究とした。対象は、術前外来の実施経験年数 5 年以上の手術室看護師とし、13 施設に同意説明文書を郵送、協力が得られた 4 施設にて調査を実施した。調査内容は、属性、患者の身体的リスク管理、不安軽減、看護師自身のスキル、人手・時間の不足に関する現状・課題・期待とし、2022 年 8 月～2024 年 2 月に Zoom®で半構造化面接を実施した。収集した語りを逐語録から抽出し、意味内容に基づきコード化、類似コードを統合と比較を繰り返しサブカテゴリー、カテゴリーを生成した。

7 名の手術室看護師にインタビュー調査を実施した。分析により、術前外来の現状では、329 コード、22 サブカテゴリー、7 カテゴリーに分類された。課題は、243 コード、19 サブカテゴリー、8 カテゴリーに分類された。現状のカテゴリーは、【術前外来担当者の人員配置の工夫】,【術前外来担当者の人材育成】,【術前情報に基づくアセスメント】,【術前から退院後を見据えた教育的支援】などを見出した。課題のカテゴリーは、【術前外来担当者の確保の困難】,【患者対応の時間確保の困難】,【術前外来担当者による患者対応の差異】,【患者の情報収集・アセスメント・情報共有が不十分】などであった。

今後の展開

論文の査読対応を行い受理されているため、今後は文章校正を行い、掲載を目指す。